



郷土の作家たち アートオリエンテーリング

答えは裏側
を見てね。

呉氏(くれし) チェックポイントでクイズをときながら、楽しく鑑賞しよう!

美術館では次のマナーを守ってくださいね。

- 1 筆記用具は鉛筆だけを使ってね。
- 2 作品にさわらないでね。
- 3 大きな声を出さないでね。
- 4 走らないでね。
- 5 飲食はしないでね。
- 6 写真撮影はしないでね。

Q1. 呉の景色が描かれている作品を見つけたら、作品名を書こう。

()

Q2. 宇根元 警 《葡萄》

女の子はどんなところに座っている? ()

季節はいつごろだと思う? () 時間は何時ごろ?()

Q3. 空野 八百蔵 《聖堂》

どんな色が使われているかな? 見つけた色を書いてみよう。

()

Q4. 岡部 繁夫 《作品 UXY》

この絵が他の絵とちがうところはどんなところ?

()

どんな色が使われている? ()

どんな形を見つけることができるかな? ()

Q5. 岩崎 守 《きらりんこ》

この絵の不思議なところをさがしてみよう。

()

Q6. 大畑 稔浩 《川尻と瀬戸内海》

写真みたいな絵。でも、この絵が写真とちがうところはどんなところ?

()

Q7. 手島 呉東 《山水》

この絵はどんな絵具で描かれている? ヒント: 習字を書くときに使います。()

この絵の中にはどんなものが描かれている? 見つけたものを書き出してみよう。

()

Q8. 谷口 仙花 《春風婦女》

この絵には現実にはあるものが、描かれていません。それは何?()

Q9. 呉氏に似ている作品はあるかな? 探してみよう。(作品名)

Q10. 古庵 千恵子 《聴く》

この作品は何でできていますか?() 何の形に見える?()

Q11. 今日見た作品の中で、あなたの一押しの作品はどれですか? 青いアンケート用紙に書いて投票しよう。

【答え】(美術作品の答えは一つではありません。この答を参考に自由に鑑賞してください。)

Q1. 藤川九郎《港》、小野川幹雄《広丸》、中本侑孝《坂のまち04》、大畑稔浩《川尻と瀬戸内海》、マシュー・フィン《大重岩》、など。九嶺(九つの山)にかこまれ、瀬戸内海に面した呉市。山の斜面の家々や海、港は呉ではよく目にする風景ですね。

Q2. 女の子は葡萄の木陰に座っています。葡萄は夏から秋にかけて実りますが、女の子の服装から季節は夏だと思われます。一見、暗い画面ですが、ところどころが明るく、輝いて見えるので、葡萄の枝葉を通して強い木漏れ日が当たっていると思われます。真昼ごろの時間ではないでしょうか？

Q3. 赤・青・緑・黄・紫・白・黒など。ほかにも見つけられたかな？ ぺたっと同じ色を広い範囲に塗るのではなく、それぞれの色を細かい筆使いで塗り分け、塗り重ねているので、色と色とが対比されたり、目の中で交じり合ったりして、より一層色鮮やかに、輝いているように見えますね。聖堂(教会)は天国とつながっているところ、天国の光がさしこんでいるみたい。

Q4. この絵には他の多くの絵のように人・物・景色・動物など具体的にこれとわかるものが描かれていません。このように何も再現せずに色と形だけで表現する絵画を「抽象画」と言います。また、他の絵は平らですが、この作品にはでっぱっているところがあります。これはこの作者の大きな特徴です。色は青とクリーム色(黄色)の2色で塗られています。でっぱりの部分には光が当たったり、影ができたり、色々な青色に見えます。画面とクリーム色の部分は長方形ですが、襷のようなでっぱりは円形に並んでいます。画面の向こう側からこちら側にエネルギーがあふれ出てきているように感じられます。

Q5. 夢の世界のように不思議な景色です。植物や鳥、草原、山、湖が太陽に向かって折り重なるように描かれています。中央の二つの山の中には湖が描かれていたり、全体として風景がうまくつながらず、つじつまが合いません。現実の世界だけでなく、現実ではありえない、夢の中のような、心の奥底の世界も、美術作品の重要なテーマとして描かれてきました。特に「シュールレアリスム」という美術運動では、つじつまが合わない夢のような世界が多く描かれました。

Q6. 人間の目で見えた広い視野の景色が描かれています。カメラの目(ファインダー)ではこれほどのパノラマは一度に写せないで、写真を何枚かつなぎ合わせなくてはならないでしょう。また、作者は空気の層を表現するため、遠くのものから絵具の層を薄く塗り重ねながら描くのだそうです。写真では感じられない空気の存在や空間の奥行を感じませんか？ そして、作者はこの絵を半年(夏から冬まで)かけて描いたそうです。青々と葉が茂る木もあれば、葉を落とした枯れ枝も描かれており、時間の流れが絵の中に閉じ込められています。写真ではなかなかできそうにないですね。

Q7. この絵は墨で描かれています。墨一色ですが、色々な線の描き方と墨の濃淡(濃い薄い)を使って表されています。日本や中国の伝統的な墨だけで描く絵を「水墨画」と言います。絵の中には、海・島・船・海辺・松・滝・人・家などが描かれています。この絵の中の人々は、のどかな海辺で本を読んだり、楽器を弾いたり、魚を釣ったり、自分の好きなことをして暮らしています。出世欲や金銭欲などがうすま(他人より自分の方が良くなろうとする)世間から離れ、このように暮らすのを理想とする考え方が古くからありました。あなたもこんなふうに暮らしたいですか？ それとも…

Q8. 日本の伝統的な絵具と描き方(日本画)で描かれたこの絵には、影が描かれていません。西洋の油絵などは光と影(明暗・陰影)を描くことにより立体感を表現します。影がないので、西洋の人たちには、初め、人物が空中に浮かんでいるように見えたそうです。でも、西洋の人たちがそれまでとは違う新しい絵の描き方を生み出そうとしたとき、日本のこのような絵の描き方が参考になりました。

Q9. 水船六洲《草刈り唄》は呉氏に似ていませんか？ この作品は木版画で、作者は最初に黒一色で全体を摺り、その上に一色につき3回ずつくらい、色を摺り重ね、濃い色の鮮やかな画面を作り出します。それにしても、どうしてこの作品が「草刈り唄」なのでしょうね。みなさんはどう思いますか？

Q10. この作品は陶器(焼き物。粘土で形を作り、焼いて作ります)で、できています。この形は人の上半身の形を連想させます。丸くなめらかな女の人の腰から肩にかけての少し回転するような動きと傾き、おなかの膨らみなどを感じませんか？ 焼き物はお茶碗やお皿、花瓶などを作るのが一般的ですが、粘土で自由に形を作ることができるので、このようなオブジェや彫刻も作られます。